静 岡 新 聞　令和２年(2020年)６月２２日（月曜日）　第２８１４７号　（日刊）

2020年
（令和２年）
６月22日
月曜日

静岡新聞

〒422-8033
静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
電話〈054〉282-1111
月決め3,300円（本体価格3,056円）
１部140円（税込み）
©静岡新聞社2020
浜松総局　浜松市中区旭町11-1 プレスタワー内 電話〈053〉455-3355
東部総局　沼津市魚町1 サンフロント内 電話〈055〉962-0380

TVラジオ…10 11 12
小説……12
とうきょうウオッチ 2
囲碁・将棋……4
文化・芸術……5
ワタシ、シズオカ人 17
まんが しずおかのDNA 7
社説「コロナと最低賃金」3

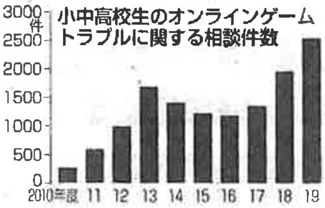
未成年者の依存深刻

ゲーム障害 相談窓口強化

消費者庁、全国に体制

オンラインゲームやテレビゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」に対応するため、消費者庁が全国の消費生活センターの窓口機能を強化し、当事者や家族からの相談を医療機関や民間支援団体に確実につなぐ仕組みを、本年度中に整備する方針を固めたことが21日、関係者への取材で分かった。国として初めて相談体制の整備に乗り出した。

＝関連記事19面へ


小中高校生のオンラインゲームトラブルに関する相談件数

医療、支援団体へつなぐ

ゲーム人口は増加し、最近では新型コロナウイルス感染症による外出自粛や休校の影響もあり、未成年者を中心にゲーム依存の深刻化が懸念されている。消費生活センターへの相談も増加。高額な課金に関する内容や「子どもがゲームをやめられない」など依存症が疑われるものも多い。

消費者庁が設置した有識者の検討会が7月に提言をまとめる。相談を受ける側は、子どもの自尊心を傷つけないなど細心の注意が必要なため、今後、消費生活センターの相談員向けに、当事者や家族から相談があった場合の相談マニュアルを配備する。

マニュアルは、政府機能の地方移転の一環として徳島県庁内に7月に常設化される、消費者庁の拠点「消費者行政新未来創造オフィス」が、専門家や当事者らから意見を聞き取り、ギャンブル依存症のマニュアルを参考に作成される見通し。

ゲーム障害は世界中で社会問題化しており、世界保健機関（WHO）が2019年5月、新たな依存症として認定した。衝動が抑えられず、日常生活よりゲームを優先し、健康に問題が生じても続ける特徴があり、学業や仕事などに重大な支障を来す症状が一定期間続くと診断される。

対策に乗り出した自治体もあり、香川県は4月に「ネット・ゲーム依存症対策条例」を施行している。

令和２年(2020年)６月２２日（月曜日）　静岡新聞

ゲームトラブル相談 最多

小中高生に課金、事件も

消費者庁が相談機能強化の体制整備に乗り出すことが21日分かった「ゲーム障害」。オンラインゲームを巡っては、小中高校生がトラブルに遭う被害が急増している。国民生活センターによると、保護者らから全国の消費生活センターへの相談は昨年度、過去最多の2531件に。ゲーム内での「課金」が40万円に上るケースもあった。

「スマートフォンの利用料金が高額だった。調べると、子どもがゲームで10万円の課金をしていた」。近畿地方の消費生活センターに6月、小学生の子を持つ親から相談が寄せられた。

国民生活センターによると、高額課金を巡る相談は2016年度に1171件となって以降、年々増加。1件当たりの平均支払額は15万円前後で推移する。昨年度はコロナ禍による休校期間中に目立って増えた。

オンラインゲームにはメッセージをやりとりできる機能があり、悪用されて事件化するケースも。鹿児島県警は19年6月、ゲームで知り合った10代の少女を自宅に連れ込んだとして、未成年者誘拐の疑いで広島県の男を逮捕した。石川、大阪などでも同様の事件があった。

業界団体のコンピュータエンターテインメント協会によると、メーカーは遊ぶ時間や課金額、ネットワーク接続などの制限を大人が遠隔操作できる「ペアレンタルコントロール」の機能を充実させている。だが子どもは簡単に解除してしまうという。

ゲーム依存から回復するための施設を各地で運営する、ワンネスグループの三宅隆之共同代表は「大人が決めたルールを強要し、機器を取り上げても解決しない。日本ではゲーム依存脱却を支援する家族会や支援団体が少ない。学校など公教育の場で節度の大切さを伝える必要がある」と指摘した。

対応、慎重さ必要

ゲーム障害に詳しい**国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）の樋口進院長の話**　全国的な相談体制の整備は非常に重要。高額課金といった消費者問題をきっかけに、依存状態が顕在化することは大いにあるためだ。ゲーム障害は子どもに多く、自殺衝動のリスクもあり、依存症のなかでも最も治療が困難。治療方針はギャンブル依存症とも異なる面がある。現状では医療体制は乏しく、専門部署も小児科か精神科か、はっきりしない。相談員は当事者の家族関係に踏み込む場合も出てくるので、今まで以上に慎重さが求められる。適切な治療につなげるためにも十分な研修が必要だ。